



今回も趣味のゴルフから

パターの練習方法として

ひとつの考え方を話をします。

(興味のある方は最後まで読んでみてください。)

あなたは「バットの距離感がどうやって合わせたらいいの？」と聞かれたら何と答えますか？「雰囲気？感覚？いろんな練習がある中で、「手で転がしてみて感覚をつかむ」方法をご紹介します。手でボールを転がして距離感が合わないのに、バットして合うはずがないことなんです。実はこの動き、転がし方が大事なようです。中腰だと「転がす」ではなく「投げる」になっちゃうんですね。ボールが空中に浮いている時間が長いわけで、実際のパティングのときのボールは空中に浮いたりしないので、腰を落としてなるべくボールが空中に浮かないように転がしてみるとパティングに近い感じで距離感のイメージが湧くこと。

実践的な練習方法として、今度はちゃんとアドレスをして、右手だけでパターを持ちボールを打ちます。こうすることでボールを転がしているのと同じような感覚で距離感を出すことができ、変にパンチが入ったりもしないし距離感が合いやすい。そのイメージのまま両手でグリップして、右手で投げる感じを出しながら打つと今までよりも距離感の合うパットできると思う。

ラウンド前の練習グリーンで手をつかて転がしてみて、グリーンの転がりや自分の距離感と合うか

どうかを確認してから

パット練習をすれば、その

日のラウンドで距離感を大

きく間違ってしまうことはな

くなるような気がしますよ。



ちよへこ

GOLF no Unchiku deshita.

よもやまばなし

葉月：向日葵の間

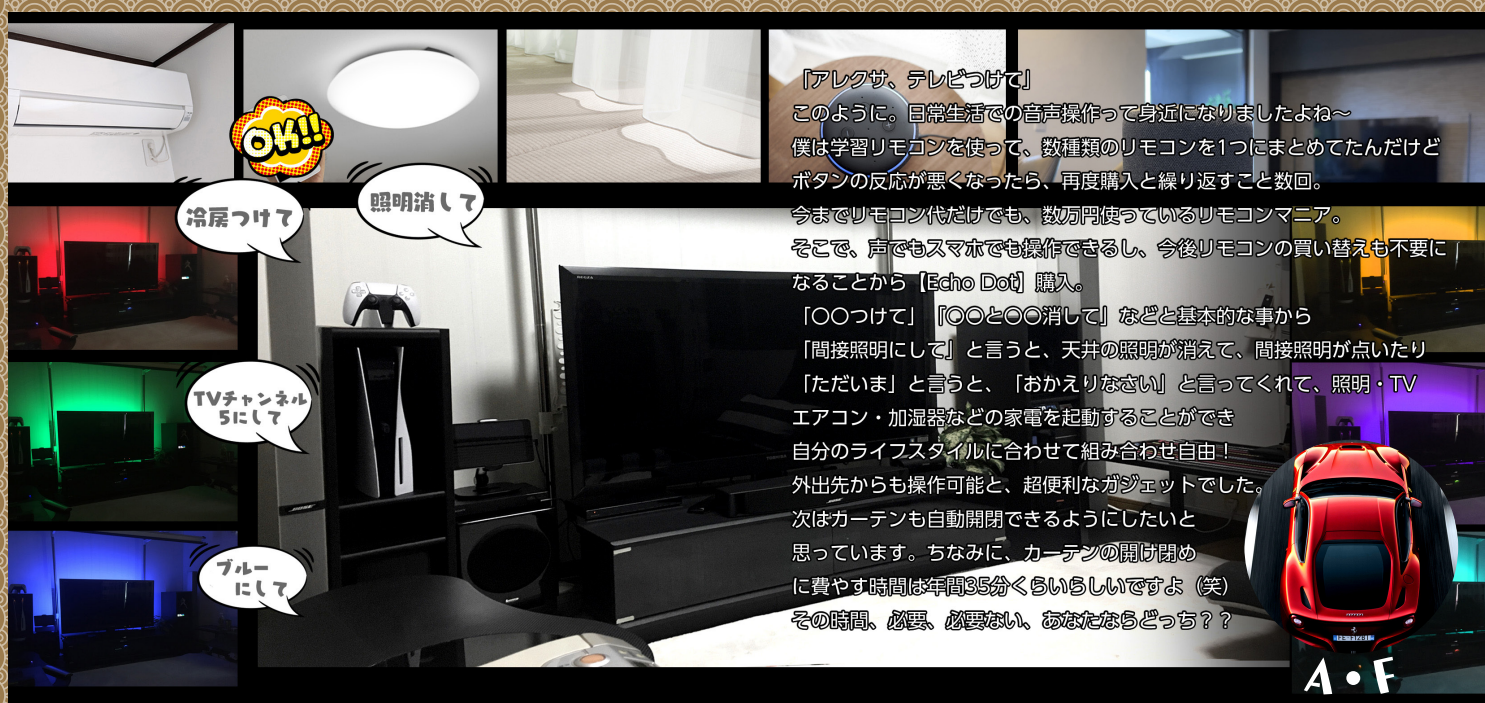
久しぶりに 小説読みました

とある雑誌で、小説好きのスタイリストが3冊の小説をおすすめしていた。そのうちの1つの小説は有名だからか、ネタバレみたいなことが書いてあり、私はネタバレしたくないし、されたくない性分のため、結末わかって読むのもどうかかなと思っただが、なんとなく気になり武者小路実篤の『友情』を読んでみた。

コロナ第7波到来中です…これからどう『共存』するかが私たちの課題です。さて、デジタル化が進みどんどん便利になって行く世の中ですが、読書もゴルフもアナログデジタルどちらも好きに選べるというのが、まさに現代の『共存』の賜物ではないでしょうか！

知ってる人も多いと思うが、この小説は現代の三角関係の原型になったとも言われている、1920年に発売された青春小説である。小説の始めのページにも、作者本人がめちゃくちゃネタバレしている。こうなるとちょっと面白くなってくる。厚みも5ミリないくらいの薄い小説だったのもあり、中盤からのめり込むようにすぐ読み終えてしまった。結果、結末を知っていても楽しめる小説だった。むしろ知ってた方がよかったかもしれない。分かつ

てもハラハラしたり心がざわざわして、心の中で主要人物三人の名前を叫んだくらいだ。めちゃくちゃおもしろかった。今は解説に載っていた、同じ著者の『お目出たき人』と『愛と死』を読んでいる。小説は年0〜3冊ほどしか読まないが、たまにはこうやってスマホを使わない時間を作るのもいいかもしれない。(今回まじめだなぁ……笑)



「アレクサ、テレビつけて」
このように。日常生活での音声操作って身近になりましたよね〜
僕は学習リモコンを使って、数種類のリモコンを1つにまとめてただけけどボタンの反応が悪くなったら、再度購入と繰り返すこと数回。
今までリモコン代だけでも、数万円使っているリモコンマニア。
そこで、声でもスマホでも操作できるし、今後リモコンの買い替えも不要になることから【Echo Dot】購入。
「〇〇つけて」「〇〇と〇〇消して」などと基本的な事から「間接照明にして」と言うと、天井の照明が消えて、間接照明が点いたり「ただいま」と言うと、「おかえりなさい」と言ってきて、照明・TV・エアコン・加湿器などの家電を起動することができ自分のライフスタイルに合わせて組み合わせ自由！
外出先からも操作可能と、超便利なガジェットでした。
次はカーテンも自動開閉できるようにしたいと思っています。ちなみに、カーテンの開け閉めに費やす時間は年間35分くらいらしいですよ(笑)
その時間、必要、必要ない、あなたならどっち？



ちゃんみん